

地域における畑作及び野菜の経営体における短期労働力並びに酪農における慢性的な労働力不足に対応するため、①対象地域での農業労働力に関する需給状況の整理・分析、②農業に関する労働を理解してもらうためのチラシ作成、説明会(新規マッチング企画)の開催、PCやスマートフォンによる農業労働に関する情報提供や既存マッチングシステムの利用促進等により、労働力確保に係るPRと具体のマッチングを実施、③経営体に対する意識改革と「働き方改革」の趣旨に沿った労働環境設定を促すための研修会や個別指導等の取り組みを行う。最終的には十勝管内全域で取組を行うことで地域の農業生産性の維持・向上とともに地域経済の持続的発展に寄与することを目指す。

### 事業実施主体構成員

帯広市川西農協、帯広大正農協、芽室町農協、更別村農協、  
幕別町農協、フードバレーとかち推進協議会

### 目標値(令和4年度)

- ①労働者マッチング件数(経営体数) 150件(令和元年度実績120件)
- ②労働環境に満足している労働者の満足度8割以上(令和元年度調査未実施)

### 令和元年度取組内容

- ①農業労働力に係る需給状況の整理・分析(7月～) →別紙1
- ②農業労働力募集用チラシ(マッチングシステム紹介)作成・ポスティング(7月～) →別紙2
- ③インターンシップの実施(8月～)
- ④農業労働力の新規発掘に係る説明会等の企画・運営(8月～)
- ⑤経営体向けマッチングシステムPRチラシ作成・配布(10月) →別紙2
- ⑥先進事例地(JAふらの)の視察(1月31日)
  - ・農作業支援組織「アグリプラン」の概要
  - ・宿泊施設見学
  - ・マッチングの仕組み、実績・課題等についてヒアリング
- ⑦農業の「働き方改革」に関する課題調査(12月～) → 別紙3
- ⑧経営体向け研修会の開催(2月12日・13日) → 別紙4

### 令和2年度取組予定

- 事業実施主体構成員を追加し、以下の取組を実施予定
- ①農業労働力に係る需給状況の変化について整理・分析(継続)
  - ②労働環境に満足している労働者の満足度調査の内容検討(新規)
  - ③農業の「働き方改革」に関する課題調査(継続)
  - ④経営体向けPRチラシ作成・配布(継続)
  - ⑤農業労働力の新規発掘に係る企画・運営(他産業との連携検討)(拡充)
  - ⑥農業労働力募集に係るホームページ掲載情報の収集(新規)
  - ⑦労働力募集用チラシ作成・ポスティング(継続)
  - ⑧経営体向け研修会の開催(継続)

# 農業労働力に係る需給状況の整理・分析

本事業の構成員となっている各JAが直近2019年に実施した農業労働力に係る調査及び「十勝農業ビジョン2021」（JAネットワーク十勝および十勝農業協同組合連合会 2017年4月）の中で組合員に2016年に実施したアンケート結果等から、以下2点について整理・分析を行った。

- (1) 労働力の過不足実態
- (2) 農業労働力不足に対して生産者が求める対策等

## (1) 労働力の過不足実態

- ・労働力が足りないことがここ数年で経営課題として大きくなってきている。
- ・畑作・酪農ともに経営規模拡大とともに雇用労働力ニーズは増加しており、今後も増加が見込まれる。
- ・一方で家族労働力の限界により、これ以上の規模拡大が図れないという声も多数。
- ・畑作において労働力ニーズが多いのは8、9月の馬鈴薯収穫、10、11月のナガイモ収穫の時期に集中している。
- ・1戸あたりの必要労働力数は平均すると2名弱ほどだが、同時期にニーズが集中するため、争奪戦になっている。
- ・野菜作付が増えて、より人手がかかるようになるという声も増えている。
- ・現状の採用手法は親族・知人紹介・人材派遣で70%以上を占め、なるべく手間をかけたくない、分かっている人に来て欲しい、という意向が伺える。

## (2) 農業労働力不足に対して生産者が求める対策等

- ・これまでは縁故採用を中心にして集めている場合が多いが、限界が来ている。
- ・十勝管内でも農家と繋がりがある方と全く繋がりが無い方でコミュニティの断絶があり、農家に繋がりがある方の人数が限定的である。
- ・外国人活用にも一定の必要性理解や意欲があるが、言語・習慣・住居・金銭などのハードル多く躊躇している声が多い。畑作においては通年雇用できないこともハードルとなっている。
- ・畑作においては通年雇用ができるようにしていくことが一つの解決策であるが、そこに取り組める農家は限定的。

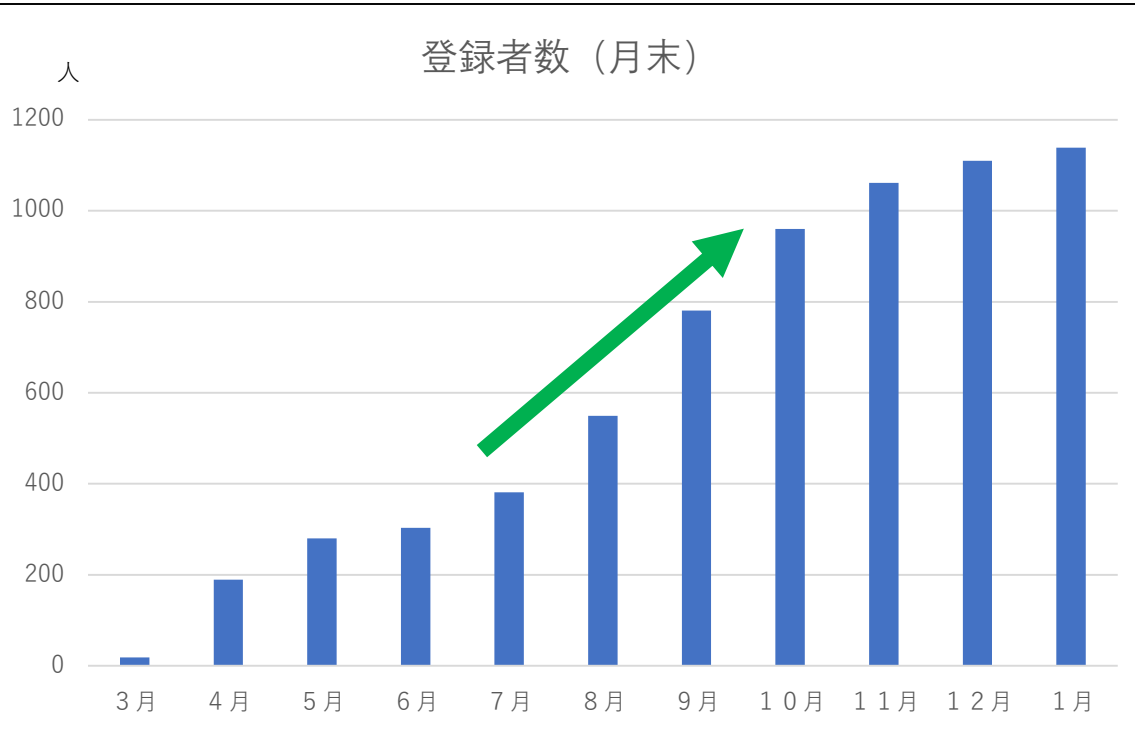


- ・これまで農業に縁遠かった潜在層に対する発掘の仕掛けが求められている。
- ・同時に受入側のモラル、労働環境平準化、言葉遣いなどの雇用者としてのリテラシー向上は必須（という声が農家内からもある）。
- ・また農家同士の相互協力の仕組みを求める声も一定数ある。
- ・帯広市内にて長年実施している農業インターンシップの継続意向、拡充意向は有り。

# 農業労働力募集用チラシ（マッチングシステム紹介）作成・ポスティング

秋の収穫期に向けて、構成員の対象エリアに既存マッチングシステム（デイワーク）の登録を促すチラシを作成・配布し、登録者数の増加につなげた。また、経営体に対しても同システムの利用を促すチラシを作成・配布し、利用促進を図った。この結果、各JAで90%以上のマッチング（契約成立後作業中止を含む）を実現した。

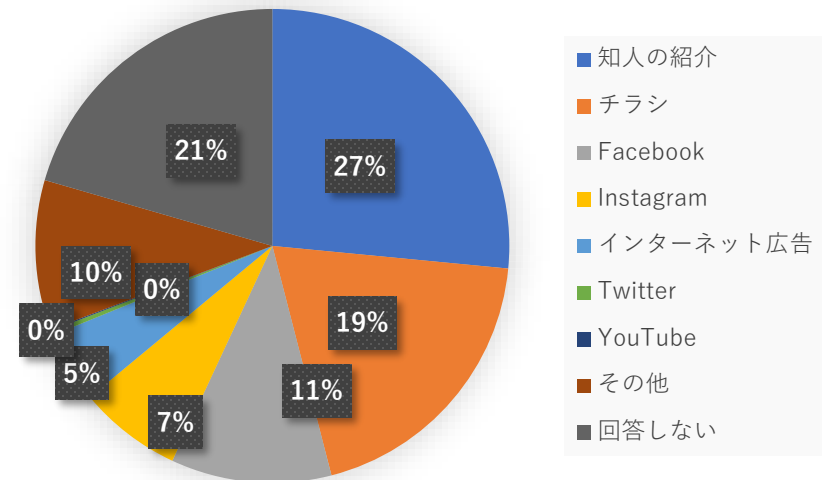
登録者数は令和元年3月からの5ヶ月で約390人  
→8月にポスティング実施により3ヶ月で約960人まで増加



↑  
ポスティング実施

デイワークを知るきっかけ（認知媒体）としては、知人の紹介（27%）、チラシ（19%）で半数近くを占めている（2月18日時点）。

## daywork認知媒体



# 農業の「働き方改革」に関する課題調査

経営体に対して、農業現場（環境）における働き方（働かせ方）の課題を経営体及び就労者へのヒアリングにより調査し、課題を分析した。

## （１）経営体へのヒアリング結果

### ①共通する課題

- ・長時間の重労働（特に繁忙期）
- ・作業が属人的（標準化できていない）
- ・職場の人間関係で辞める、コミュニケーション不足  
作業はできるけど、人間的に問題があるベテランをやめさせられない
- ・業界全般のイメージが良くない（3K）
- ・社員への給与が他の業界に比べて低い
- ・キャリアアップ（給与アップ）が見えづらい
- ・一人ひとり求めるものが違う。それとどう向き合うか。

### ②営農類型及び形態により特有の課題

#### 【畑作】

- ・繁忙の差で通年雇用ができない
- ・バイト採用は同時期に争奪戦
- ・天候など計算できない

#### 【酪農】

- ・拘束時間が長い(朝夕の搾乳の間、繁殖に合わせて夜の見回りなど)
- ・就職にあたり、住み込みや引越が必要になる場合が多い
- ・孤独（交流の機会が少なく、友人が少ない）

#### 【家族経営】

- ・福利厚生がやすい（社会保険など加入していない）
- ・法人化すると、出すお金が大きくなる（ので踏み出せない）

#### 【法人経営】

- ・業務が細分化されているためトータルでの経験を積みづらい
- ・部門による離職の差が大きい(繁殖は人気だけど搾乳は不人気など)

## （２）就労者へのヒアリング結果

### 【農作業現場でのお話】

- ・具体的な指示がもらえない
- ・親方と従業員の指示が違う
- ・不十分な指導の中「一度言ったよね」の繰り返し。
- ・体力ないと言われる。
- ・休憩時間以外のトイレを許可しない。
- ・1時間休みが30分しかなかった。

### 【嬉しい話】

- ・「また次も来てほしい」と言われるとものすごく嬉しい。
- ・お土産でもらった野菜を食べるといつも以上に美味しい。

## （３）課題の分析

農業がこれまで縁故中心による業界であり、雇用経験、マネジメント経験が少ないため、働き手との間で軋轢が発生。また一口に農業といっても様々な農家や仕事の種類があることに対する求職側の理解も不足。

農家側としてまずは多様な求職者に対する理解を深め、労働環境の平準化、言葉遣いなどの雇用者としてのリテラシー向上は必須。採用においては農業を知らない人にも分かりやすく具体的に表示する必要がある（言い回しや映像活用などを工夫する）。

給与・福利厚生・勤務時間など形に見える価値に視点が行きがちだが、競合する業界や他社と比較してマイナスにしないことが大切（過大にプラスにすれば良いというわけでもない）。その上で、農業ならではの自社ならではの付加価値の向上に注力することが求められる。

# 経営体向け研修会の開催

経営体に対して実施したヒアリング（別紙3）で出された課題を踏まえて、職場環境改善に必要な研修として「農業従事者の雇用環境づくりと採用」をテーマに経営体向け研修会を実施した。

## ■実施日時・会場

- ① 令和2年2月12日（水）14時半～16時半@とかちプラザ
- ② 令和2年2月13日（木）10時～12時@とかちプラザ

## ■研修テーマ

農業従事者の雇用環境づくりと採用  
～働き手を確保するために取り組むべきこと～

## ■講師

大井川友洋氏  
（特定社会保険労務士、産業カウンセラー）

## ■参加者

33名  
（①15名、②18名）

## ■参加した経営体の声（アンケートより抜粋）

- 「雇用や労災等についてとても勉強になった」
- 「参加者同士の対話形式が今までにない新鮮な形で、ためになるところが多かった」
- 「他の生産者からもグループワークを通じて様々な取り組みが聞けて良かった」
- 「課題や悩みで共通するところも多く、それに対して色々な意見が聞けて良かった」
- 「これからの営農に対する姿勢が少し改善されたように思う」
- 「もっともっと語り合う時間が欲しい」
- 「他のテーマでも継続して開催して欲しい」
- 「女性の方にも参加してもらいたい」

## ■2月13日開催の様子

